

# 練馬区この1年

令和4年4月～令和5年3月



～ねりまシティ・ウィザード・プロジェクト～  
『魔法で練馬をきれいに!!』魔法使いの姿で清掃（練馬まつり）

## 4年4月

### 1日 区が送付する封筒に音声コードを印字

視覚や識字に障害のある人が区から届く書類を判別できるように、区が送付する年間600万通を超える封筒に音声コードを4月から印字した。音声コードをスマートフォン等で読み取ることで、送付物の内容を音声やテキストデータで確認できる。

また、希望者には住民税や国民健康保険、予防接種の案内などの封筒に点字シールを添付するほか、文書の発送を事前にメールでお知らせするサービスも開始した。

### 1日 「デジタルサポート相談」および「デジタル化・イノベーション等支援特別貸付」を開始

練馬ビジネスサポートセンターで、企業活動のデジタル化を総合的に支援するため開始した。コロナ禍により企業活動のデジタル化に取り組む区内事業者が増加する一方で、ノウハウや人材不足、資金調達などの課題がみられた。専門相談窓口や貸付制度を区独自に新設し、経営の効率化や生産性の向上につながる企業活動のデジタル化を支援していく。

### 7日 国による保育士等の処遇改善をさらに充実、区独自に対象者を拡大して支援を実施

子育てを支援する現場職員の処遇改善を着実に進め、人材の確保や子育てサービスの充実を図ることを目的として、国の処遇改善の対象から外れた、看護師や栄養士等の専門職、区が加配している保育士等への独自支援を行うこととした。

この支援は、国の事業と同様に3%程度(9,000円)の収入引き上げとなるよう支援するもので、施設側の事務負担とならないよう、既存の運営費に上乗せするなど施設に応じた方法で支給した。

### 19日 前川燿男第20代区長が初登庁

17日の練馬区長選挙で当選(三選)した前川燿男第20代区長が初登庁し、区民や職員が拍手で出迎えた。

任期は令和4年4月20日から8年4月19日までの4年間。



区民や職員に迎えられる前川区長

### 24日 「ねりまシティ・ウィザード・プロジェクト」が始動

ねりま観光センターで、「ワーナー ブラザーズ スタジオツアー東京-メイキング・オブ・ハリリー・ポッター」の開設に合わせた機運醸成の取組として、『魔法で練馬を盛り上げよう!』をテーマにしたプロジェクトを始動した。

本プロジェクトのイベントとして、照姫まつり会場において『魔法で練馬をきれいに!!』をコンセプトに、区内の中高生が中心となってコスプレ清掃イベントを実施した。



コスプレ清掃イベントの様子

## 5月

### 14日 牧野富太郎博士が命名したヒメアジサイの記念植樹式を開催

練馬区名誉区民で、「日本の植物分類学の父」と呼ばれる、牧野富太郎博士の生誕160年記念事業として、牧野博士が名付け、愛でたヒメアジサイの植樹式を牧野記念庭園で実施した。

その他、4月から年度を通じて、4回の「特別展」開催や、練馬みどりの葉っぱい基金を活用して、博士の熱き研究心を伝えるために当時の書斎の様子を再現した。

ヒメアジサイは、牧野博士が生前に自宅の庭（現・牧野記念庭園）に植えていたが、現在は見るができなくなっていた。そこで、牧野博士の没後に、高知県立牧野植物園へ枝を贈り、系統保存されていたヒメアジサイが、牧野博士生誕160年を記念し、牧野記念庭園へ里帰りすることとなった。



牧野博士生誕160年  
記念ポストカード

## 6月

### 1日 防災・減災の取組が評価され、「電波の日」総務省関東総合通信局長表彰を受賞

3年に実施した関東総合通信局との合同訓練、同局作成の臨時災害放送局周知用動画への全面協力など、災害時におけるFM放送を通じた防災減災対策の推進および、その有用性に関する広報に協力した取組が評価され、平成29年に続く2度目の受賞となった。

### 7日 第74代区議会議長に藤井たかし氏、第76代副議長に柳沢よしみ氏が就任

新議長に藤井たかし氏（自民党）、新副議長に柳沢よしみ氏（公明党）が選出された。

### 27日 多岐に渡るおくやみに関する手続きを、一括して受付・案内を行う専用窓口「おくやみコーナー」を開設

来庁した遺族が、何枚もの書類に住所や氏名を書かないで済むよう、戸籍住民課に「おくやみコーナー」を開設した。戸籍謄本の請求や各種保険証の返却等の区役所での手続きについて、各種申請書を一括で作成し、窓口を移動することなく1か所で受け付ける。また、区役所以外の年金や相続などについても、関係機関の案内を行う。

### 30日 練馬区薬剤師会と連携し、保健相談およびお薬相談を開始

区内の国保加入者で「重複受診」「頻回受診」等の人を対象に、練馬区薬剤師会と連携した新たな支援を開始した。

これまで行ってきた保健師による訪問健康相談と連携し、かかりつけ薬局の薬剤師が処方されている全ての薬を確認し、薬の飲み方や飲み合わせについてのアドバイス、処方日数の調整などを行う。

区と地元薬剤師会が連携して患者を支援する訪問指導事業は、23区内で初めての取組であった。

## 7月

### 30日 「夏休み！ねりま環境まなびフェスタ」を初開催

小・中学生と保護者を対象に、環境について楽しく学べ、夏休みの自由研究のヒントとなる参加・体験型イベントを、練馬区地球温暖化対策地域協議会（ねり☆エコ）と区の共催で初開催した。

脱炭素、エネルギー、食・おうちのエコ、リサイクル、みどり・生きものなど、各環境活動に取り組む地域の団体、企業 27 団体が出展・協賛した。

## 8月

### 1日 慈誠会・練馬高野台病院が開院

急性期を脱した患者への在宅復帰に向けたリハビリテーションを行う「回復期機能」や長期療養が必要な患者への治療を行う「慢性期機能」を有する慈誠会・練馬高野台病院が開院した。

石神井地域初となる回復期機能を有する病院が開院することで、区民が住み慣れた地域でより安心して医療を受けられる体制が整備された。



慈誠会・練馬高野台病院外観

### 21日 障害者施設の手づくり品を販売するウェブサイト「ねりいちポータル」を開設

区内の障害者施設の利用者が製作する自主生産品の情報を集めたウェブサイト「ねりいちポータル」を開設した。製品のアピールを効果的に行い、購買に繋げるとともに、障害のある人の工賃向上を実現していく。

## 9月

### 5日 住民票の写しや戸籍証明書などの発行手数料の支払いに、キャッシュレス決済を導入

区内 6 か所の区民事務所など 11 の窓口でキャッシュレス決済を実施した。これにより、区役所窓口等における証明書発行手数料の支払いについて、キャッシュレスでの対応が可能となった。

## 10月

### 1日 タブレット等を利用した、「遠隔手話通訳」を開始

「練馬区障害者の意思疎通の促進と手話言語の普及に関する条例」に基づき実施する、障害者の意思疎通支援の取組の 1 つで、職員と聴覚障害のある来庁者の会話を手話オペレーターが通訳して必要な手続きを進める。

区役所本庁舎すべての窓口のほか、区民事務所、総合福祉事務所、保健相談所などにおいても開始した。

### 11日 光が丘第四中学校跡地に、新しい練馬光が丘病院が開院

新病院は、手術室や ICU（集中治療室）の増設など既存の医療機能の充実に加え、区内初となる入院機能を備えた歯科口腔外科や、光が丘地域初となる回復期リハビリテーション病棟を新設した。さらに、免震装置の設置や地域コージェネレーションシステムを導入するなど、災害拠点病院としての機能も向上した。



練馬光が丘病院外観

### 14日 第三回練馬区議会定例会で補正予算案を可決

物価上昇による区民や事業者への影響を緩和するため、生活支援臨時給付金や、キャッシュレス決済ポイント還元キャンペーンに要する経費など、約 193 億 1 千万円を可決した。

## 17日 緊急経営支援特別貸付で中小企業の資金繰りを支援

区内の中小企業等を対象に、急激な物価高騰により影響を受ける区内事業者の経営を支援するため、「緊急経営支援特別貸付」の申込の受付を開始した。

信用保証料を全額、利率2%のうち、1.8%を区が負担することで、中小事業者を支援した。

## 30日 長野県上田市のアンテナショップ「信州上田物産館 UEDA Nerima BASE」がオープン

区の友好都市である長野県上田市のアンテナショップ「信州上田物産館 UEDA Nerima BASE (ウエダネリマベース)」が、石神井町7丁目に開設された。菓子や味噌など、上田市産の加工品を中心とした名産品やお酒が購入できる。

## 31日 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金の支給申込通知および支給要件確認書を発送し、順次給付開始

国は、電力・ガス・食料品等の物価上昇による負担増を踏まえ、特に家計への影響が大きい低所得世帯（住民税非課税世帯等）に対し、1世帯当たり5万円を給付することを決定した。これを受け、区は、対象者へ支給申込通知および支給要件確認書を発送し、4年11月7日から順次給付を開始した。

また、4年1月以降に予期せず収入が減少し、住民税非課税世帯と同様の水準となった世帯への給付を、順次開始した。

## 11月

### 1日 こども発達支援センターで、障害児一時預かり事業を開始

障害のある子どもや発達に心配のある子どもの保育を一時的に行う。障害者手帳や受給者証を必要とせずに、障害児や発達に不安を感じる子どもを持つ保護者が気軽に利用することができる。また、事業を実施することも発達支援センターが相談から障害の診断、通所訓練まで一体的に実施している施設であるため、障害児やその保護者を総合的に支援できる。



一時預かりの様子

### 1日 練馬光が丘病院で、医療的ケア児のショートステイ（短期入所）を開始

医療的ケア（※）が必要な障害児（医療的ケア児）を受け入れるショートステイ（短期入所）を開始した。

医療的ケア児の受入れには、看護師の配置等が必要となることから、通常の障害児者施設では受入れが難しい実態があった。都内実施施設の多くは国立病院や都立病院であり、民間病院での実施の例は少なかったが、練馬光が丘病院の移転・改築に向けた区と病院の協議の中で、実現に至った。今後、対象を成人へ拡大する予定。

※医療的ケア：  
人工呼吸器による呼吸管理や喀痰吸引、経管栄養などの医療行為

### 11月 「これからの図書館構想」を策定

これからの図書館の理念として、「世界につながる 彩り豊かな 知の情報拠点」を掲げ、おおむね10年後の将来像やその実現に向けた4つのコンセプトを示している。コンセプトに基づく取組を進めることで、新たな図書館の将来像の実現を目指す。

## 12月

下旬 生活に困窮する家庭を支援するため、区独自に子育て家庭への臨時給付金を12月下旬から支給開始

急激な円安を背景にした食料品等の物価上昇が拡大・長期化するなか、真に生活に困窮する区民への更なる支援として、低所得の子育て家庭に区独自の給付金を支給した。

支給額は児童一人あたり10万円で、約1万1千人が対象。対象となる世帯には12月中旬からお知らせを送付し、12月下旬から順次支給を開始した。

## 5年1月

11日 障害のある人のコミュニケーションを支援する障害者ICT相談窓口を開設

中村橋福祉ケアセンターに障害者ICT相談窓口を開設し、イラスト・文字で会話を補助するアプリやパソコンを視線の動きで操作できる機器など、障害者の意思疎通を助けるツールの相談や体験、貸出、操作方法のサポートを行う。また、障害者施設の職員等に向けて、機器の活用事例や活用方法を学ぶ研修を実施する。

## 2月

3日 「地域コジェネレーションシステム」がコージェネ大賞2022で民生用部門優秀賞を受賞

区と順天堂練馬病院等が連携し整備した「地域コジェネレーションシステム」について、発災時における病院から医療救護所への電力供給体制を都内自治体で初めて構築したことが評価され、民生用部門で優秀賞を受賞した。

2月 「フラッグ設置記念式典」や「ねりまシティ・ウィザード・フェスティバル」等を開催

スタジオツアー東京の開設に合わせた機運醸成および施設来場者の周辺商店会等への周遊促進を目的に、スタジオツアー東京のコンセプトアートがデザインされたフラッグ約500枚を施設周辺12商店会の街路灯等に設置した。

26日、設置に先立ち、練馬駅北口ペデストリアンデッキを会場に、スタジオツアー東京の関係者を招き、フラッグデザインの除幕セレモニー等を行う「フラッグ設置記念式典」を、日本大学芸術学部学生や近隣小学校児童と共に開催した。

また、同日、平成つつじ公園を会場に、魔法をコンセプトにした「ねりまシティ・ウィザード・フェスティバル」を開催し、オリジナル魔法メニューの販売等を行った。

2月はユナイテッド・シネマとしまえんで、ハリー・ポッターシリーズ全8作品の上映会を4回に分けて実施するなど、多くのイベントを開催した。



商店会等の街路灯に設置したフラッグ

## 3月

### 20日 「高松みらいのはたけ」オープン

区内の「高松一、二、三丁目農の風景育成地区」に、農の景観を区民とともに育て・守る畑「区立高松みらいのはたけ」を開園した。この施設名称は、地元小学校の児童から案を募集し、約1,600のアイデアの中から選定した。



開園式の様子

### 26日 ドラマ放送直前機運醸成イベント「牧野富太郎フェスタ」開催

NHKの連続テレビ小説「らんまん」主人公のモデル牧野富太郎博士が晩年を過ごした大泉地域の魅力発信のため、区と地元商店街が協働してイベントを開催。物産展の開催や記念品の配布などを実施。また、同日にゆめりあホールにて、牧野博士にまつわるトークショー・ミニコンサートを開催した。



牧野博士のキービジュアル

### 27日 東映、東映アニメーションの人気キャラクターをラッピングした地上機器(※)を5か所とデザインマンホールを1か所設置

「映像∞文化のまち構想」に基づき、映像文化を感じられる街並みづくりの一環として、東映、東映アニメーションの人気キャラクターをラッピングした地上機器を5か所とデザインマンホールを1か所設置した。

※地上機器：

電線を地中化する際、電気の変圧等を行うために設置する機器



秘密戦隊ゴレンジャー  
(秘密戦隊ゴレンジャー)  
©石森プロ・東映



ロボコン  
(がんばれ!!ロボコン)  
©石森プロ・東映



キュアブラックとキュアホワイト  
(ふたりはプリキュア)  
©ABC-A・東映アニメーション



八神太一とアグモン  
(デジモンアドベンチャー)  
©本郷あきよし・東映アニメーション



仮面ライダー1号  
(仮面ライダー)  
©石森プロ・東映



仮面ライダー1号  
(仮面ライダー)  
©石森プロ・東映

### 27日 住民税等の徴収業務効率化に向け、滞納整理にAIを活用する実証実験を開始

区は、高度な専門知識や経験が必要な滞納整理業務にAIを活用するため、富士通 Japan (株)と共同で、ベテラン職員のノウハウを学習させたAIを開発する実証実験を全国で初めて開始した。

下旬 「取組体制強化プラン ～区民協働 DX 人事・人材育成～」を策定

政策を実現する具体的な取組と体制を強化するため、「区民協働」「DX（※）」「人事・人材育成」を3つの柱とする取組体制強化プランを策定した。

※ DX（デジタル・トランスフォーメーション）：  
デジタル技術やデータを活用して、制度やサービス、業務を抜本的に「変革」し、これまで実現できなかった新たな価値を創造すること



# 令和4年4月～令和5年3月までの 新型コロナウイルス感染症に対する区の対応

## 4年4月

### 22日 都のリバウンド警戒期間延長に伴い、練馬区方針を変更

都は21日、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大に備え、都内全域を区域とした、24日までのリバウンド警戒期間を5月22日まで延長し、基本的な感染防止策の徹底等を要請した。

これを受け、区は、25日から5月22日までの期間の対応について、新型コロナウイルス感染症に対する練馬区方針を変更した。

## 5月

### 11日 専門職コラム「みんなが知りたい、コロナのこと」第三弾を区ホームページで公開

第三弾として区民の治療や健康相談に当たっている医師、歯科医師、薬剤師および助産師に執筆を依頼した。健診・検診控えによる疾病の発見の遅れ、マスク生活が及ぼすお口の健康、薬局（薬剤師）や助産師の活用方法等、健康を支える情報を幅広く取り上げている。

### 20日 4回目接種実施計画「練馬区モデル」を公表

国のワクチン4回目接種の開始日決定を受けて、接種実施計画「練馬区モデル【4回目接種】」を公表した。

4回目接種の対象者には、23日から接種券を発送し、診療所等での個別接種を25日から開始した。

### 21日 都のリバウンド警戒期間終了に伴い、練馬区方針を変更

都は20日、現在の感染状況や医療提供体制を踏まえ、リバウンド警戒期間を22日をもって終了し、23日以降の取組として、基本的な感染防止対策の徹底等の協力を依頼した。

これを受け、区は、23日以降の対応について、新型コロナウイルス感染症に対する練馬区方針を変更した。

## 6月

### 24日 4年度住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金の支給要件確認書を発送し、順次給付開始

国は、コロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」に基づき、真に生活に困っている方々への支援を強化するため、家計急変により受給資格があるにもかかわらず、申請がないことにより受給できていない世帯に対して、4年度課税情報を活用して1世帯当たり10万円を給付することを決定した。これを受け、区は、対象者へ支給要件確認書を発送し、4年7月6日から順次給付を開始した。

また、4年1月以降に新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変し、住民税非課税世帯と同様の水準となった世帯への給付を、順次開始した。

## 7月

### 13日 3回目ワクチン未接種者へ、「今こそ3回目接種を」接種勧奨チラシを送付

2回目接種を終えた約23万人のうち、3回目のワクチンを接種していない約14万人の区民に、接種を呼びかけるチラシを個別郵送した。

併せて、区ホームページ・SNSなどに加え、区立施設等にポスターを掲出し、ワクチン接種や基本的な感染対策の再徹底を呼び掛けた。

### 16日 第7波に対応するため、練馬区方針を変更

都は15日、現在の感染状況や医療提供体制を踏まえ、引き続きの取組として、基本的な感染防止対策の徹底等の協力を依頼した。

これを受け、区は、16日以降の対応について、新型コロナウイルス感染症に対する練馬区方針を変更した。

## 9月

### 14日 国および都の方針を受けて、練馬区方針を変更

国は、オミクロン株の特性を踏まえて、重症化リスクのある高齢者等を守ることに重点を置いて、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図ることとし、8日、基本的対処方針を変更した。これを受け、都は13日、コロナとの共存に向けた都の方針と取組を決定した。

これらを踏まえ、区は、14日以降の対応について、新型コロナウイルス感染症に対する練馬区方針を変更した。

### 26日 オミクロン株対応ワクチン（2価）接種を開始

区は、国からのオミクロン株対応ワクチン接種に関する通知を受け、初回接種（1回目および2回目の接種）を完了した12歳以上を対象にオミクロン株と従来株に対応した2価ワクチンでの接種を26日から開始した。

## 10月

### 17日 生活支援臨時給付金の給付開始

新型コロナウイルス感染症により生活困窮に陥った方の急激な物価上昇等による生活への影響を緩和するため、4年3月分以降の住居確保給付金等の受給者で一定の要件を満たす世帯に対し、区独自に15万円（ひとり親世帯は20万円）の生活支援臨時給付金の給付を開始した。

### 27日 乳幼児（生後6か月から4歳まで）へのワクチン接種を開始

区は、国からの乳幼児へのワクチン接種に関する通知を受け、27日から接種を開始した。

## 12月

### 21日 家事支援用品の購入支援事業の開始

都はコロナ禍における家事・育児負担軽減対策として、4年度限定で、家事支援用品の購入を行う自治体へ補助事業を行う考えを示した。

これを受け、区は保育サービスを利用していない1歳または2歳の在宅子育て家庭を対象に、食器洗い乾燥機やロボット掃除機等の家事支援用品の購入を支援するため、対象児童1人あたり5万円相当のポイントを付与する事業を開始した。

## 5年1月

### 30日 国および都の方針を受けて、練馬区方針を変更

国は27日、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更等に関する対応方針を決定し、あわせて、基本的対処方針を変更した。

これを受け、都は同日、感染拡大防止の取組を決定した。

これらを踏まえ、区は、30日以降の対応について、新型コロナウイルス感染症に対する練馬区方針を変更した。

## 3月

### 3日 国および都の方針を受けて、練馬区方針を変更

国は2月10日、基本的対処方針を変更し、マスク着用の考え方を示した。

これを受け、都は2月14日、3月13日から5月7日までの感染拡大防止の取組を決定した。これらを踏まえ、区は、3月13日から5月7日までの新型コロナウイルス感染症に対する練馬区方針を変更した。